令 和 6 年 度 学 校 評 価 書

岡山県立津山東高等学校
校　長　安　東　幸　信　　印

1　自己評価

Ⅰ　評価結果
（別紙参照）

Ⅱ　分析・改善方策

1　主体的・対話的で深い学びによる資質・能力の育成
（１）学習指導要領に基づく指導と評価の一体化（授業・学習評価の改善等）
（２）学びの基礎診断・模試等の結果分析の充実による確かな学力の育成
（３）資質・能力の向上を目的としたＩＣＴ・デジタル機器活用の研究と実践
（学校情報化認定）
（４）各教科、特別活動、「行学」等によるキャリア教育の充実

・新学習指導要領における高等学校教育課程完成年度であり、各教科で検証を行いながら指導と評価の一体化や観点別評価を行うことができた。学校自己評価アンケートの生徒に対する項目「教員は、授業の計画、授業展開の工夫をしている」の肯定的評価が89％（前年比+4％）、「授業や部活動・学校行事などで、自分の考えをまとめたり、発表したりする機会がある」の肯定的評価が86％（前年比+1％）と高かった。本校教育の特徴である主体的な学習、総合的な探究の時間「行学」での地域課題解決型の地域をフィールドにした探究学習、発表会などに対する生徒の満足度が高いことが伺えた。また、ペアワークやグループワークを積極的に取り入れるなどの授業改善に取り組み、教科内で共有し、実施してきた成果であり、一人一台端末を活用した授業展開が積極的に行われている結果であると分析している。
・生徒一人ひとりの進路希望、学力、適性を把握し支援するための進路検討会や模試分析会等を、進路支援部が中心となり各学年で計画的に実施し、情報共有や分析ができた。進路指導の研修の機会ともなっており、他学年の分析会に参加する教員も見られた。分析会の結果を踏まえ、生徒の進路実現に向けて進路指導や学習指導を行うことができている。３年生の受験指導については３年団や進路支援部だけでなく、多くの教員であたることができた。次年度はさらに早期から指導できるよう対応していく。
・学校情報化優良校として８月に認定を受けることができた。学校自己評価アンケートの生徒に対する項目「学校は、学習に対し、課題やＩＣＴオンラインシステムの活用などの工夫で支援を行っている」の肯定的評価が79％（前年比+5％）と高くなっており、今後も引き続きＩＣＴ・デジタル機器活用の研究と実践を続けていく。
・学校自己評価アンケートの「行学や体験活動により、社会と接点を持ち、課題発見解決力が身に付いてきている」の肯定的評価が保護者・生徒ともに高い（保護者82％、生徒80％）。総合的な探究の時間「行学」や学校設定教科「地域創生学」、専門学科における校外実習など、本校教育の柱であるＰＢＬの満足度が高いと分析している。また、これらの地域と連携した活動を通して、将来の地域を担う人材になりたいという生徒もでてきている。引き続きさまざまな活動を通し、キャリア教育の充実を図っていく。

2　健やかな心身の育成と人間力の向上
（１）生徒同士が互いに支え合い高め合える集団づくりの推進
（２）特別活動、部活動、ボランティア活動への生徒の主体的な取組の推進

・生徒会行事の東雲祭・球技大会や異学年交流活動などを通して、生徒同士が支え合う集団づくりにつながっている。また、自己肯定感を高め、人間性や社会性を高める機会にもなっている。
・学校祭の東雲祭は、新たなものを作るという課題を持って取り組み、生徒が主体的に見直しや改善を行い、大きな盛り上がりを作ることができた。また、保護者だけでなく、限定的だが一般の方にも見ていただくことができた。より多くの方に来場していただくためには課題もあるため、検討し工夫して対応をしていく。
・ボランティア活動に多くの生徒が主体的に取り組んでおり、地域のニーズに応えることで積極的に社会に貢献できている。また、幅広い年代の方とのコミュニケーション

能力も向上している。ボランティア活動に参加する生徒に偏りがみられるため、今後はＬＨＲ等を利用し、ボランティア活動や社会貢献活動について考える機会を持つなど、より多くの生徒が主体的に取り組んでいけるよう工夫をしていく。
・部活動への参加率が、ここ数年はコロナ禍もあって部活動への意識が低下し落ちていたが、昨年度と比べると明らかに上がってきている。このような生徒の主体的な行動が、活気があり元気な学校の雰囲気を作り出しているため、継続して部活動に取り組む生徒が増えるよう促していく。

３　安全安心で快適な学校づくりのための施策の推進
（１）教育相談体制の充実やアセスメントの活用等による生徒の悩みへの適切な対応
（２）交通や防災等についての安全意識やモラルの育成

・全教員で教育相談的視点を持ち、気になる生徒については個別のケース会議を持ちながら、複数の教員で対応をしている。学校生活アンケートを年２回実施し、その結果から担任が聞き取りや対応をしており、いじめ防止対策検討委員会で情報を共有できた。ケース会議は３回と少なかったが、７日以上の連続欠席の生徒や家庭環境に問題を抱えている生徒については、ＳＣやＳＳＷの助言を受けながら担任や学年団を中心に対応をしてきている。また、特別支援教員研修を行い、個別の生徒の症例についての対応方法など共通理解を持つことができた。引き続き生徒の心身の変化の早期発見に努め、適切な支援につなげていきたい。
・学校周辺での安全な登下校を目指し、後川沿いの道路の登下校での通行禁止や定期的な交通指導を行い、重大事故は起きなかった。地域の方からの要望もあり、今後も交通指導を継続し、事故防止を目指す。
・自転車盗難被害を防止するため、交通委員会が中心となって施錠の呼びかけをし、施錠率が80％まで高まった。津山警察署からの要請で、自転車施錠を呼び掛ける動画制作に本校書道部が協力し、津山市内のデジタルサイネージや岡山県警のYouTubeチャンネルなどに掲載され、生徒だけでなく外部の方への注意喚起にも貢献することができた。引き続き、生徒が主体となって呼びかけを継続していきたい。
・避難訓練を年２回実施し、いずれも無線機を活用し停電時にも対応できるような内容で行うことができた。安全点検も毎月実施した結果、施設設備に起因する事故は発生しなかった。学校自己評価アンケートの項目「学校は安全・安心な学習環境づくりに努めている」の肯定的評価が保護者･生徒ともに高い結果がでている（保護者76％、生徒80％）。一方で、「学校内は、清掃や環境整備ができている」「校内の施設・設備は、学校生活がしやすいように充実している」の項目に対する保護者・生徒の肯定的評価がやや低い（60％前後）。自由記述にはトイレの改修やホームルームのスクリーンの見にくさについての指摘があった。そのためトイレについては生徒アンケートを行い、設備や使い方についての状況や要望を把握し、すぐにできる対応は行った。トイレの洋式化は進めているものの不十分なため、引き続き予算要望を行っていく。ホームルームのプロジェクターについては、今年度末以降古いものから順次更新し、スクリーンの位置や大きさなども変更していく予定である。

４　学校の魅力化と情報発信（開かれた学校づくり）
（１）教育活動の魅力化と中学生への広報活動のさらなる充実
（２）姉妹校との国際交流、短期留学等を通じた国際性豊かな学校づくり

・今年度は部活動公開とオープンスクールの開催日を分け、８月に実施した。オープンスクールでは、体験授業に加え、生徒会生徒の発案で在校生との座談会を行い、参加した中学生のアンケート結果からも好評だったことがうかがえた。今後も生徒会を中心とした生徒主体のオープンスクールを実施していく。また、部活動公開については開催時期を検討するなど、中学生が参加しやすい機会を計画する。
・ホームページで本校の教育活動や部活動での活躍状況などをタイムリーに発信することができ、アクセス数からも一定数の方々に広報できていることがうかがえる。美作地域の中学生が減少していくことを踏まえ、情報発信の方法について検討していく。
・姉妹校のカナダ・ケロウナ高校への訪問を含めた14日間の語学研修を12月に実施し、19名の生徒が参加した。参加した生徒への教育的効果は大きかったが、費用高騰や姉妹校とのかかわり方など課題も多く、今後は実施しやすい国際交流の在り方を検討していく。

2　学校関係者評価委員名（学校運営協議会委員　五十音順　※校長を除く）

門長　儀紘（㈲キャンパスショップラビット代表取締役）
櫛田　晃稜（本校ＰＴＡ会長）
髙橋　英資（㈱マルイ総務人事部次長）
布上　朋和（津山市医師会理事）
長谷川　勝一（美作大学副学長）
福田　倫文（津山市企画財政部みらいビジョン戦略室室長）
三村　雅彦（NPO法人みんなの集落研究所研究員）
森　泰久（津山市教育委員会企画参事）
山名　敏和（林田宮川町町内会長）

3　学校関係者評価

・ボランティアに参加する生徒数の数値目標は達成できたが、参加する生徒が固定化していることが課題とのことだが、固定化は悪いことではないし、固定化するものである。ボランティアに参加するという意思を尊重して評価すればよい。
・図書室での図書の貸出冊数は昨年度と比べて大きく増えており、目標値も超えている。授業での図書室利用が目標値に達していないとのことだが、中間期より確実に増えている。インターネットで情報収集することが増えている中、図書室利用が増えてきているのだから、評価に値すると思う。
・部活動への参加者が増えていることは、よいことだと思う。学校に活気があることがよい。
・国際交流について、姉妹校にこだわらなくてもよいのでは。オンライン等も含めて、様々な国際交流の方法がある。姉妹校にこだわらないほうが、学校も計画しやすいのではないか。
・交流には国際交流だけでなく地域交流も含んでもよいのでは。「行学」で地域の人と一緒になって頑張っている。学校経営目標の具体的な取組のどこかに「地域」という文字を入れてほしい。
・先生方の実務が多く多忙なので、業務軽減や生産性が上がることも盛り込んでいけばよいと思う。
・学校自己評価アンケートに、学校に期待することを自由記述で回答していただいてもよいのではないか。

4　来年度の重点取組（「令和７年度学校経営計画書」より）

1　主体的・対話的で深い学びによる資質・能力の育成
（１）学習指導要領に基づく指導と評価の一体化（授業・学習評価の改善等）
（２）学びの基礎診断・模試等の結果分析の充実による確かな学力の育成
（３）資質・能力の向上を目的としたＩＣＴ・デジタル機器活用の研究と実践
（４）各教科、特別活動、地域と連携した「行学」等によるキャリア教育の充実

2　健やかな心身の育成と人間力の向上
（１）生徒同士が互いに支え合い高め合える集団づくりの推進
（２）特別活動、部活動、ボランティア活動への生徒の主体的な取組の推進

3　安全安心で快適な学校づくりのための施策の推進
（１）教育相談体制の充実やアセスメントの活用等による生徒の悩みへの適切な対応
（２）交通や防災等についての安全意識やモラルの育成

4　学校の魅力化と情報発信（開かれた学校づくり）
（１）教育活動の魅力化と中学生への広報活動の更なる充実
（２）国際交流、短期留学等を通じた国際性豊かな学校づくり